

津軽三味線で日本一

都城西高
久留さん

迫力と繊細さ 高く評価



岡山県で開かれた「第2回津軽三味線全国大会 in 倉敷」の一般女子部門で、都城西高1年の久留若菜さん(16)＝都城市＝が優勝した。津軽三味線石井流家元の石井秀弦さん(58)＝三股町＝の下で5歳から稽古を積んできた久留さんは、「楽しんで演奏するよう心掛けたのがよかった」と喜んでいる。

5歳の時に石井さんの人の演奏も聴きたかく評価されて優勝した。久留さんの演奏について、石井さんは「ただ強い、弱いだけではなく、緊張感のある表現を意識しているところがいい」と紹介。また「久留さん自身に、同世代に負けたくないという根性がある」とも。

大会は10月上旬に開かれ、「日本一」「津軽五大民謡」「津軽三味線初級」など12部門に84人が出場し、一般女子の部には高校生から60歳まで23人がエントリー。久留さんは、津軽じょんがら節を基にした2分30秒ほどの演奏を披露し、「曲中ほとんど出なかったたにドラマを感じさせ、め、「全国のレベルを知りたかったし、ほか色」(石井さん)が高

高校では英会話部に所属し、テスト前を除いては毎日三味線を弾いているという久留さん。同市で19日に開く石井流創立25周年記念公演へ稽古を重ねるなど、大学進学を控える中でも「続けられる範囲で三味線を弾いていたい」。今後に向けては「看護師になりたいと考えているので、三味線で患者さんの心のケアができればいい」と望んでいる。

(鳥越真也)

「第2回津軽三味線全国大会 in 倉敷」一般女子部門で優勝した久留若菜さん